
大学教育学会ニュースレター

No.93 2013. 4. 10

大学教育学会 (*Liberal and General Education Society of Japan*)

事務局 : 桜美林大学淵野辺キャンパス内

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL/ FAX : (042)704-7014

郵便振替口座:00120-4-178891 大学教育学会

e-mail: ungakkai@gmail.com URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

大学教育学会第35回大会を開催するにあたって

大学教育学会第35回(2013年)大会

大会実行委員長 羽田 貴史(東北大学高等教育開発推進センター)

前回の大会校である北海道大学に感謝申し上げることから、大会のご案内をはじめたいと思います。昨年はまったく大会を実施できる状況ではありませんでした。震災2年を経ても、まだ復興は途上にあります。石巻には高校生が集える施設もなく、福島原発には1日400トンの地下水が流入し、1ベクレル以下の汚染水を海に放出する計画があることも、3月に報道されました。私たちは、未だに大震災・原発・津波という3つの大災害のもとにあり、科学技術のあり方も含めて大きな転換期にあります。

この点から、今回のテーマをこの歴史的イベントを契機とする大学教育の課題とすることも個人的には考えたこともありましたが、私たちのセンターは、昨年、『高等教育ライブラリ3 東日本大震災と大学教育の使命』を出版し、紀要でも特集を組んでいます。しかし、私の手元には、4つの事故調査委員会報告書を含め、30冊の震災関係の図書がありますが、そのどれをとっても、今経験している出来事を説明しているとは思えないのです。震災で露呈したのは、日本人の行動様式の深部にまで及ぶ複雑な瓦礫の集合体であり、思考が熟成しないままに軽々しく口に出すと、すべてはジェンカのように崩れ去るのではないかと……。

にもかかわらず、私たちが転換期にあるのは確かであり、この点から、前回大会の趣旨を引き継ぎ、「教育から学習への転換」をテーマにした次第です。アメリカ高等教育界で、リーダーの一人であるフィンク氏を基調講演者として招聘できたのは、何よりもありがたいことであり、その翻訳者である土持法一氏に司会をお願いでき、素晴らしい組み合わせの講演が実現できることになりました。

基調講演に引き続くシンポジウム「教育から学習への転換を支えるもの—カリキュラム・空間・マネジメント—」には、カリキュラム論の視点で松下佳代氏、インターネットによる大学授業の配信(オープンコースウェア)を含む学習環境の大変化を山内祐平氏、立命館大学の取り組みをもとにマネジメントを沖裕貴氏、とそれぞれ斯界のリーダーからの報告を頂けることになっています。3月に東京で打ち合わせをしたのですが、私たちがまさに転換期にあることを実感する機会になると確信しています。

また、ラウンドテーブルは16、自由研究発表は90と、例年並みの発表申し込みがありました。ぜひご参加いただき、質疑と討論を通じて新たな知見の創出に関わって頂ければと思います。

なお、東北大学高等教育開発推進センターは2010年から教育関係共同利用拠点として認定を受け、各種の事業を展開しています。その成果もお見せしたく、前日の5月31日は、プレセッションとして「自然科学総合実験見学」、1日の午前には、特設ワークショップ「東北大学における多読法の試み」と「異文化交流による学びの実現—『国際共修ゼミ』の可能性」の2つを準備しています。

さらに、2日目の自由研究発表終了後には、研究担当理事企画として、「大学教育の実践研究をいかに進めるか」を企画しています。

あまりにも盛りだくさんかもしれませんが、何せ「転換期」ですから。

5月末の仙台からお待ちしています。

大学教育学会第35回（2013年）大会

統一テーマ

「教育から学習への転換」

1. 開催日時および会場

期 日 2013年6月1日（土）、2日（日）

会 場 東北大学 川内北キャンパス 講義棟C棟及びマルチメディア教育研究棟
仙台市青葉区川内41

2. 大会日程

プレセッション：5月31日（金）

12:30 12:40 13:00 15:00

| | | |
|----|----|-------------------|
| 受付 | 説明 | 自然科学総合 実験見学と説明 |
|----|----|-------------------|

第1日：6月1日（土）

8:30 9:00 9:30 12:00 13:00 13:50 14:10 14:20 15:40 15:50 18:10 18:30 20:00

| | | | | | | |
|----|---------------|----|----|-------|----------|-----|
| 受付 | ラウンドテーブル | 昼食 | 総会 | 基調講演 | 公開シンポジウム | 懇親会 |
| | 東北大学特設ワークショップ | | | | | |
| | オリエンテーション | | | 開催校挨拶 | | |

第2日：6月2日（日）

9:00 9:30 12:00 13:00 15:00 15:15 15:30 17:00

| | | | | | |
|----|---------|----|---------|--------------|---------------------|
| 受付 | 自由研究発表Ⅰ | 昼食 | 自由研究発表Ⅱ | 閉会行事・次期開催校挨拶 | 研究担当理事特設 ワークショップ |
|----|---------|----|---------|--------------|---------------------|

プレセッション 5月31日(金)

- 12:30~15:00 東北大学高等教育開発推進センター提供「自然科学総合実験授業見学と説明」
学生実験棟3階実験室1集合(先着20名 大会校HPにて事前申し込み4月1日~)
- 企画者 関根勉、田嶋玄一
- 趣旨 学士課程教育における自然科学実験の導入と普及は、科学的思考を身につけるための重要な課題である。東北大学における「自然科学総合実験」は、自然科学分野を融合した実験科目であり、理系初年次全学生の必修であるだけでなく、文科系初年次学生向け科目も開講し、日本の大学教育において、最も優れた取り組みのひとつである。
- 「自然科学総合実験」は、東北大学高等教育開発推進センターが特色GP(2005~2007)の支援を受けて、企画、教材作成、実験機材や設備を含む教育環境の整備と保守管理、授業の実践・支援、レポート指導、履修指導、成績評価、セメスタごとの実践的FD活動および独自アンケート調査、出席・成績情報システムなど一連の教育システムを開発し、実施に至っている。学生の出席状況やレポート提出状況を把握し、その情報を基に履修指導や、学部へのフィードバックの実施など組織的教育のモデルのひとつでもある。今回、東北大学高等教育開発推進センター理科実験室の協力を得て、自然科学総合実験を参観し、システム全体の理解を深める機会とすることにした。

第1日 6月1日(土)

- 8:30~ 受付
- 9:00~9:20 初めて参加する人のためのオリエンテーション
- 9:30~12:00 ラウンドテーブル1~16
- 東北大学高等教育開発推進センター提供 特設ワークショップ(大会校HPにて事前申し込み4月1日~)
- (1)「Extensive Reading at Tohoku University
東北大学における多読法の試み」(Ben Shearon & Daniel Joel Eichhorst)
- (2)「異文化交流による学びの実現—「国際共修ゼミ」の可能性」
(佐藤 勢紀子)
- 12:00~13:00 昼食
- 13:00~13:50 総会
- 13:50~14:10 休憩
- 14:10~14:20 開催校挨拶
- 14:20~15:40 基調講演
ディー・フィンク(Dee Fink)博士(高等教育コンサルタント)
- 15:40~15:50 休憩
- 15:50~18:10 公開シンポジウム
「教育から学習への転換を支えるもの—カリキュラム・空間・マネジメント—」
*基調講演・シンポジウムは同時通訳
- 18:30~20:00 懇親会(東北大学生協 川内の杜ダイニング)

第2日 6月2日(日)

- 9:00~ 受付
- 9:30~12:00 自由研究発表I
- 12:00~13:00 昼食
- 13:00~15:00 自由研究発表II
- 15:00~15:15 閉会行事・次期開催校挨拶
- 15:30~17:00 研究担当理事特設ワークショップ
“大学教育の実践研究をいかに進めるか”(山田礼子・羽田貴史)

関連行事

5月31日（金）

16:00~18:00

理事会

18:20~20:00

理事会懇親会・フィンク氏歓迎会（東北大学生協・ブッシュクローバー）

進行の詳細

6月1日（土）

8:30~ 受付

9:00~9:20 初めて参加する人のためのオリエンテーション

会場：C403 担当： 会長 小笠原 正明（北海道大学）、副会長 山内 正平（千葉大学）
事務局長 石渡 尊子（桜美林大学）

9:30~12:00 ラウンドテーブル

テーブル1 グローバルな人材育成に向けたキャリア教育の質保証とライティング指導力

会場：C101

企画者：井下 理（慶應義塾大学）、井下 千以子（桜美林大学）

趣旨：グローバルな人材育成のシステム構築は、多くの国々で大学教育の重要なテーマの一つとなっている。大学卒業後に求められる資質や諸技能をどのように学士課程において習得させるかは、歴史・文化・社会構造の違いを超え、これからの大学教育の喫緊の課題となる。したがって、大学卒業後の職業生活や生涯設計と関連づけて支援する方策を、国際的な協力連携の枠組みを視野に入れつつ、理念、政策、カリキュラム、教授法の各レベルで検討する必要がある。特に、思考を鍛えるライティング指導は重要な方策のひとつとなる。本 RT では、キャリア教育との接続を視野に入れ、海外の事例も含めて、広く議論する。

テーブル2 一般教育の知的遺産を活かす（その5）—専門教育の一般教育化—

会場：C102

企画者：志津木 敬（広島大学）、竹下 賢（関西大学）、山本 伸也（関西学院大学）、丹生 久吉（三重大学）、小林 勝法（文教大学）、山下 耕（東京工芸大学）

趣旨：「教育から学習への転換」は、各専攻領域における取り組みでもあります。各専攻領域におけるバラエティーある知識の統制原理の探求が伴われる点では、「専門教育の一般教育化」は、「教育から学習への転換」を考える際にも手掛かりとなる知的遺産ではないでしょうか。

今回は、建築学と生命科学論・和学を取り上げます。前者は、ライフスタイルや審美眼にも及ぶ領域であり、後者のうち、和学はわが国の知的土壌への適応という問題意識を通じて形成されてきた領域です。多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

テーブル3 学生とともに進めるFD—学生FDの地域交流の展望を探る—

会場：C106

企画者：木野 茂（立命館大学）、梅村 修（追手門学院大学）、服部 憲児（大阪大学）天野 憲樹（岡山大学）、吉田 博（徳島大学）、村山 孝道（京都文教大学）

趣旨：FD活動にも学生参加をという試みは国立大学の一部で2001年頃からFDセンター等によって行われたが、岡山大学を除いては数年で終息した。

その後、立命館大学で学生の主体的な活動をFDセンターがサポートするという「学生FD」活動が2006年度から始まり、この活動を全国に広げる目的で2009年夏から「学生FDサミット」も始まった。学生FDの目標は学生の視点からのFD活動を教職学三位一体で進めることであるが、この学生FDは今や全国に広がり、各地で地域交流や大学間交流にまで発展している。サミットも4年目に入っているが、今回はこの学生FDの地域交流の今後の展望について参加者とともに考えたい。

テーブル4 ラーニングコモンズにおける学習の形

会場：C201

企画者：米澤 誠（東北大学）、井上 真琴（同志社大学）、近田 政博（名古屋大学）、長澤 多代（三重大学）

趣 旨：「教育から学習への転換」を図るための方策として、ラーニングコモンズのような教室以外の新たな学びの空間で、どのような教育活動や学習活動を展開できるか、その可能性を追求する必要がある。

本ラウンドテーブルでは、アクティブ・ラーニングを中心とした新たな学習の形が、ラーニングコモンズでどのように展開されつつあるのか、最前線の実践事例を中心に議論を深めることとしたい。

テーブル5 質文化形成のペダゴジーに支えられた授業・カリキュラム開発

会場：C202

企画者：池田 輝政（名城大学）、青山 佳代（愛知江南短期大学）、中島 英博（名城大学）、小湊 卓夫（九州大学）

趣 旨：すべての大学教師が専門職素養として、（1）カリキュラム内容、（2）教授法、（3）クラス集団づくりの3領域において、研鑽と設計・開発を積む時代が本格的に到来しつつある。このダイナミックなFD課題を支える新しいペダゴジーの理論や原理を見渡すと、①教授と学習の独自の文脈、②幼児教育から成人教育までの分断された教育文化、を統合的視点から再創造する革新が我々の視野にも入ってきている。このラウンドテーブルは、大学教育の質文化づくりとそれを支える有力なペダゴジー・モデルに注目し、その観点から授業づくりやカリキュラム開発、そしてアクションリサーチ事例を意味づけし、協同する教育コミュニティづくりを目指す。

テーブル6 【課題研究委員会企画】学生支援担当教職員のキャリア・パスと求められる能力 ～「越境」の光と影～

会場：C205

企画者：川島 啓二（国立教育政策研究所）、青野 透（金沢大学）、田中 岳（九州大学）、小貫 有紀子（九州大学）、串本 剛（東北大学）、橋場 論（立教大学）

趣 旨：昨年度の課題研究集会シンポ「学生支援に携わる教職員に求められる能力とは何か」では、学生支援担当教職員に求められる能力とその指標について、内外の検討事例や、学生相談学会の「学生支援士」資格を例に検討した。本ラウンドテーブルでは、そこで出た課題をより具体的な見地から検討することをねらいとし、所属部署の異動や学生や社会の変化に応じて、多様な学生支援活動を展開せざるをえない教職員の実態についての報告を受け、その求められる能力像や能力開発の在り方について、議論を深める。桐朋学園大学学生支援課学生相談室・長瀬恵氏「音大生のメンタルケアからキャリア支援へ」（仮）と、国際基督教大学アカデミックプランニングセンター・大枝さやか氏「キャリア支援からアカデミックプランニングへ」（仮）の事例報告が予定されている。

テーブル7 学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅴ—就職活動の圧縮と学生生活の充実について考える—

会場：C206

企画者：米田 敬子（文教大学）、十河 功一（九州女子大学）、高橋 真義（桜美林大学）、菊地 勇次（文部科学省）、中村 拓昭（九州産業大学）、塩崎 俊彦（高知大学）

趣 旨：大学は、大学の資産であり主役である学生をいかに活かすが問われている。学生の就職活動の早期化は正のために、経団連は広報活動開始を、2011年からは12月1日とした。この活動期間の2ヶ月間の圧縮は、学生にとって修学と学生生活の充実にあてられたのであろうか。企業が求める人材像は、学生たちに反映されているのだろうか。

就職に関連する関係者から「就職活動の圧縮と学生生活の充実について」の問題提起を受け、ラウンドテーブルでは、学生を含む参加者と「自己表現・評価トレーニング」を用いてディスカッションをおこなう。就職活動の充実を視座に入れて、学生が目を輝かせる大学教育の新たな可能性を探る。

テーブル8 学生と楽しむ大学教育

会場：C301

企画者：清水 亮（三重中京大学）、橋本 勝（富山大学）

趣旨：昨夏の中教審答申の核心は学生の「主体的学び」への大学教育の「質的転換」にあった。「教育パラダイム」から「学習パラダイム」への本格「転換」が社会から求められているわけである。ではどうすればよいのか。キーワードは「楽しさ」である。教職員も学生も楽しいことには積極的になりやすいからである。いかにしたら学生が楽しみながら学べる授業をプロデュース、クリエートできるかを模索し具現化するかが肝要となるが先駆的事例は各地にある。本ラウンドテーブルでは、そうした事例を共有しつつ、学生参画型FDの有効性も含め、大学コミュニティ全体を巻き込んだムーブメントとしての主体的学びの実現に向けた方策を様々な角度から議論したい。

テーブル9 【課題研究委員会企画】職員から見た教養教育カリキュラム・マネジメント—作成・維持・検証—

会場：C302

企画者：佐々木 一也（立教大学）、中井 俊樹（名古屋大学）、清水 栄子（阿南工業高等専門学校）、秦敬治（愛媛大学）、本郷 優紀子（桜美林大学）、竹山 優子（筑紫女学園）、今田 晶子（立教大学）、寺崎 昌男（立教学院）

趣旨：昨年の課題研究集会での中留武昭氏による大学におけるカリキュラム・マネジメントの定義「カリキュラムの内容・方法と条件整備活動の対応関係を組織構造とその文化を媒介にしてPDCAサイクルを通して動態化して行く営み」（一部省略）、組織間、教員間での動態的関係を中心に見ている。我々はこの営みを動かす主体と原動力を職員の参画と教職協働と見て、中留説を補う意味で、教職協働がそれのどの部分に相当し、それをどのように実際に動かすのかを明らかにしたい。今回は教養教育を取り上げ、職員からの報告を受けて、協働の位置づけを行う。報告大学及び報告者については、国公立大学の関係者に交渉中。

テーブル10 保健医療福祉系大学における教養教育の問題（4）—多ルート問題と大学の独立性について考える—

会場：C303

企画者：小野 滋男（北海道医療大学）、志水 幸（北海道医療大学）、堀井 泰明（天使大学）

趣旨：これまで、われわれは保健医療福祉系大学における教養教育の問題について、「専門教育と教養教育とのつながり（2010年大会）」、「人文社会系教養の意義を考える（2011年大会）」、「コア・カリキュラムにおける人文社会系教養の意義を考える（2012年大会）」の視点から検討してきた。その結果、教養教育と専門教育とを統合した教育体制の整備、当該専門教育の成果に対する人文社会系教養の知見からの再審問の必要性、教養の問題を科目に還元せずに検討する意義について議論を深めてきた。

そこで、今回は、専門職養成に係る多ルート問題と大学教育の独立性の視点から、人文社会系教養の意義について考えてみたい。

テーブル11 学生アスリートのキャリア支援を考える

会場：C304

企画者：木内 敦詞（大阪工業大学）、奈良 雅之（目白大学）、島本 好平（兵庫教育大学）、長倉 富貴（山梨学院大学）

趣旨：大学入試の多様化した今日、高校でのスポーツ活動経歴による出願（スポーツ推薦入試やそれに準じるもの）は、わが国の大学で一般化している。また、学生アスリート対象の企業説明会がいくつも開催されているなどの事実は、それだけ多くの学生アスリートの存在と、彼らの活力を求める社会のニーズの高まりを示している。一方で、学生アスリートは日々の練習や試合による時間的制約のため、一般学生よりも職業意識を養う機会が少なかったり、就職活動を思うようにできなかったりすることも指摘されている。そこで今回の企画では、学生アスリートのキャリア支援の現状と問題点について情報共有するとともに、今後の方向性について議論したい。

テーブル12 「学習する組織」の理論をベースにしたSDプログラムの開発と専門職育成のための大学間連携

会場：C305

企画者：児玉 英明（京都府立大学）、中元 崇（京都大学）

趣旨：本ラウンドテーブルの目的は、第一に「学習する組織」の理論をベースにしたSDプログラムの構築である。第二に、そのようなSDプログラム総体（担い手・受け手などのヒト含む）を高めていくには、外部との相互関係・連携が不可欠の要素であるという認識のもとでの基盤構築である。本ラウンドテーブルでは、「学習する組織」をキーワードにした経営組織論からSDを再考した場合、どのようなプログラムが企画できるのか、そのようなプログラム総体と外部との関係・連携のあり方はどのようなものかを議論するものである。

テーブル13 高等教育における学習支援についての諸問題—歴史的視点にもとづいた検討—

会場：C306

企画者：長尾 佳代子（大阪体育大学）、谷川 裕稔（四国大学短期大学部）

趣旨：本ラウンドテーブルでは、本邦で高等教育に期待されていた教育内容とそれを実現するために設けられた学習支援の制度や機関の歴史を振り返る。さらに、これらについての歴史的視点を共有した上で、学習支援に関わる諸問題について検討する。とくに2008年中教審答申における「リメディアル教育」や「初年次教育」の位置づけやそれに対する現場の対応について討議したい。報告として「本邦高等教育の歴史概観」、「旧制大学のための学習支援—学制以降の流れ—」（長尾）、「新制大学における学習支援—1970年代からの流れを中心に—」（谷川）を予定している。現場の対応については参加者からの活発な情報提供や意見交換を期待している。

テーブル14 学習科学が大学教育を変える！学生の隠れた能力を引き出す学び合いをデザインする

会場：C307

企画者：森 朋子（島根大学）、尾澤 重知（早稲田大学）

趣旨：本大会公開シンポジウム「教育から学習への転換を支えるもの—カリキュラム・空間・マネジメント—」に関連し、本ラウンドテーブルでは、学生の主体的な学びと、隠れた能力を引き出す学習科学を取り上げる。学習科学は、認知科学・学習理論を基盤に、授業現場を研究対象として、様々な角度から学びの質の向上を図る実践的教育学であり、学生の主体性を喚起し、いわゆる21世紀スキルと呼ばれる能力の育成に効果が高いと言われている。本ラウンドテーブルでは、本学会において初めて学習科学を扱うことから、そのデザインの背景にある学習理論をわかりやすく説明しながら、代表的なデザインを用いた事例を紹介していく。

テーブル15 主体的学びを促す授業は、学生を主体的にするか—学習者中心“な”授業

会場：C401

企画者：たなか よしこ（日本工業大学）、小山 義徳（千葉大学）、河住 有希子（日本工業大学）、馬場 眞知子（東京農工大学）

趣旨：今日、大学の果たすべき役割・昨日と課題として、社会経済の発展を牽引する人材育成、生涯学び続け、主体的に考える力を持った人材育成がある。大学教育は何を学生に教育として施すかではなく、卒業時に学生が何をできるようになっているかという結果が求められている。

学士課程質保証が求められている今日、アクティブ・ラーニング、PBL、サービスラーニング、プロジェクト型学習、とさまざまな形態、目的で授業や教育プログラムが企画されている。さらに、e-ポートフォリオの活用など、学生が自立していく過程でのエージェントとしての教員の関わりが欠かせない。本ラウンドテーブルでは学習者自身が自律した学習者であるためには教員とのどのような関わりが重要かを検討する。

テーブル16 【課題研究委員会企画】FDの実践的課題解決のための重層的アプローチ：3大学のFDのケース・スタディ

会場：C402

企画者：佐藤 浩章（愛媛大学）、山田 剛史（愛媛大学）

趣旨：本発表では、まず高等教育開発実践を分析する重層的な枠組みを提示する。その上で、「大同大学の公開授業と授業研究会」、「帝京大学のポートフォリオ導入の試み」「京都産業大学の学生と連携したFD」という3つの大学における高等教育開発の実践を、本枠組みを使って分析する。この分析によって、各実践がどのようなアプローチを使って進められているのか、そうした取り組み

みを通して、どのような学習を学生に促進しようとしているのかが明らかになるだろう。本発表は、「FD の実践的課題解決のための重層的アプローチ」と題する本学会課題研究の一環として行われるものである。

9 : 30 ~ 12 : 00 東北大学高等教育開発推進センター提供 特設ワークショップ (ラウンドテーブルと並行開催)

ワークショップ1 東北大学における多読法の試み

会場：東北大学附属図書館ラーニングcommons

講師：Ben Shearon & Daniel Joel Eichhorst (東北大学高等教育開発推進センター)

趣旨：Extensive reading (ER) is an educational method which requires students to read massive amounts of comprehensible text with the goal of having them develop reading fluency and automaticity as well as a love of reading. ER was first used in classes at Tohoku University in 2009 and its usage has grown. In the 2013-14 academic year over 1,000 first and second year students under the direction of 8 faculty will be doing extensive reading in the ER@TU program. This program is a collaborative effort involving native speaker and Japanese faculty, the Tohoku University Library and the Center for the Advancement of Higher Education. Today's workshop will introduce the concept behind extensive reading, the history of extensive reading at Tohoku University, how the extensive reading program is organized and managed, how teachers actually manage extensive reading in the classroom, how the library is involved, and how students have responded to and performed through doing extensive reading. Participants will get hands-on experience and receive copies of a handbook describing the current ER@TU program.

ワークショップ2 異文化交流による学びの実現—「国際共修ゼミ」の可能性

会場：C105

講師：佐藤 勢紀子、曾根原理、副島 健作、末松 和子、上原 聡 (東北大学)、押谷 祐子、虫明 美喜 (東北多文化アカデミー)

趣旨：東北大学では、平成 21 年度から、初年次学生を主対象とするカレント・トピックス科目の授業として、複数の「国際共修ゼミ」を開講している。「国際共修ゼミ」は、全学の外国人留学生を対象とする日本文化演習の授業 (日本語レベル：中・上級) と合同開講の形式をとっており、日本人学生と留学生がクラス活動や意見交換を通じてともに学ぶことのできる少人数ゼミである。ワークショップの第一部では、この「国際共修ゼミ」における様々な実践とその成果を紹介し、第二部では、ゲスト参加のゼミ受講生もまじえて、参加者に「国際共修ゼミ」の疑似体験をしていただきながら、こうした共修ゼミが持つ意義や検討課題、そして今後の可能性について意見交換を行ないたい。

12 : 00 ~ 13 : 00 昼食

13 : 00 ~ 13 : 50 総会

会場：マルチメディア教育研究棟 M206、6階大ホール (中継のみ)

13 : 50 ~ 14 : 10 休憩

14 : 10 ~ 14 : 20 大会校挨拶

会場：マルチメディア教育研究棟 M206

挨拶：東北大学総長 里見 進

14：20～15：40 基調講演

会場：マルチメディア教育研究棟 M206、6階大ホール（中継のみ）

演題：Designing Your Courses for More Significant Learning

講師：ディー・フィンク（Dee Fink）博士（高等教育コンサルタント）

司会：土持ゲーリー法一（帝京大学）

※同時通訳有

15：40～15：50 休憩

15：50～18：10 公開シンポジウム「教育から学習への転換を支えるもの —カリキュラム・空間・マネジメント—」

会場：マルチメディア教育研究棟 M206、6階大ホール（中継のみ）

司会：杉本 和弘（東北大学）、羽田 貴史（東北大学）

報告1：松下 佳代（京都大学）カリキュラムの観点から

報告2：山内 祐平（東京大学）学習環境の観点から

報告3：沖 裕貴（立命館大学） マネジメントの観点から

※パネルディスカッションにはフィンク氏も登壇。同時通訳あり。

18：30～20：00 懇親会

会場：東北大学生協 川内の杜ダイニング

6月2日（日）

9：30～12：00 自由研究発表 I

（○は登壇者）

部会1 初年次教育（1）

会場：C101

司会：山田 礼子（同志社大学）、西村 秀雄（金沢工業大学）

9:30～9:50 大学講義参加を支援する日本語授業の試み—リアクションペーパーの内容分析をもとに—

○福島 智子（桜美林大学）、○三宅 若菜（桜美林大学）

9:50～10:10 座学以外の講義形式の可能性を求めて—星城大学経営学部「社会探索ゼミ」の試み

○神野 真寿美（星城大学）、○加藤 知子（星城大学）、○中島 英司（星城大学）

10:10～10:30 初年次教育の入門時におけるグループ活動の試み

○久田 晴生（大同大学）

10:30～10:40 休憩

10:40～11:00 科目連携型初年次教育の試み～まとめにかえて～

○松浦 正博（広島女学院大学）、中田 美喜子（広島女学院大学）

11:00～11:20 初年次教育におけるスピーチの実践授業を通して—その意義と成果

○藤木 美奈子（桜美林大学）

11:20～11:40 総合討論

部会2 教職員能力開発(1)

会場：C102

司会：細川 敏幸(北海道大学)、栗田 佳代子(東京大学)

9:30~9:50 持続可能な開発のための創造的教師

○竹村 哲(富山大学)

9:50~10:10 大学教員養成プログラム(PFF)導入研究の成果と問題点と将来展望

○宇田川 拓雄(北海道教育大学)

10:10~10:30 米国研究大学における大学教員準備プログラムの最前線—学習評価能力を養成する PFF に着目して—

○吉良 直(日本教育大学院大学)

10:30~10:40 休憩

10:40~11:00 北欧諸国における大学教育のプロフェッショナル認定の仕組みに関する比較研究

○加藤 かおり(新潟大学)

11:00~11:20 高等教育開発の実践枠組みとしての3×3モデル

○佐藤 浩章(愛媛大学)

11:20~11:40 eラーニングによる大学教養体育のプレFD教材の開発

○小林 勝法(文教大学)、木内 敦詞(大阪工業大学)、嵯峨 寿(筑波大学)

11:40~12:00 総合討論

部会3 教育方法・授業改善(1)

会場：C105

司会：濱名 篤(関西国際大学)、杉原 真晃(山形大学)

9:30~9:50 芝浦工業大学における学生関与のFD活動事例：SCOT学生による授業コンサルティング

○ホートン広瀬 恵美子(芝浦工業大学)、榊原暢久(芝浦工業大学)

9:50~10:10 多人数の意見を「十字モデル」で有機的につなぐ対話型授業のデザイン

○牧野 由香里(関西大学)

10:10~10:30 医療系学部における「コミュニケーション演習」の授業改善

—授業評価及びコミュニケーション・スキルの視点から—

○奈良 雅之(目白大学)

10:30~10:40 休憩

10:40~11:00 授業におけるPDCAサイクル理解の試み

○安岡 高志(立命館大学)

11:00~11:20 大学における教員の授業の省察を促すためのツールの一検討

○大山 牧子(京都大学大学院)

11:20~11:40 総合討論

部会4 学士課程教育(1)

会場：C106

司会：大塚 雄作(京都大学)、杉谷 祐美子(青山学院大学)

9:30~9:50 学生が共通して持つべき素養・能力を明確化した「新しい共通教育」の研究

○小川 勤(山口大学)、糸長 雅弘(山口大学、非会員)

9:50~10:10 長崎大学における学習コミュニティ型教養教育の試み

○山地 弘起(長崎大学)、橋本 健夫(長崎大学)

10:00~10:30 理工系単科大学における共通教育の展開

○吉永 契一郎(東京農工大学)

10:30~10:40 休憩

- 10:40～11:00 大学生の科学リテラシー教育に対する認識
 ○西垣 順子（大阪市立大学）、坂本 美紀（神戸大学、非会員）、
 山口 悦司（神戸大学）、稲垣 成哲（神戸大学、非会員）
- 11:00～11:20 eラーニングの学習行動を、ユーザーエクスペリエンスデザインで読み解く
 ○株式会社ファカルタス
- 11:20～11:40 ゼミナール経験の発展性に関する学生の認識の検討
 ○伏木田 稚子（東京大学大学院）、北村 智（東京経済大学、非会員）、
 山内 祐平（東京大学、非会員）
- 11:40～12:00 総合討論

部会5 主体的学習の支援

会場：C201

司会：松下 佳代（京都大学）、近田 政博（名古屋大学）

- 9:30～9:50 学生を授業に巻き込み、主体性を引き出す手法
 ○中村 文子（ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社）
- 9:50～10:10 “自問自答”的端緒からの展開—学生参加を实らせる工夫
 ○飯野 幹夫（国立音楽大学）
- 10:10～10:30 ライティング・センターで文章作成支援を行うチューターの意識
 —ベテランと新人の比較—
 ○太田 裕子（早稲田大学）、佐渡島 紗織（早稲田大学）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 S L A（Student Learning Adviser）利用学生の傾向分析
 ○鈴木 学（東北大学）、○足立 佳菜（東北大学）
- 11:00～11:20 クラス LA 育成による主体的学習の促進
 ○佐藤 広子（目白大学）
- 11:20～11:40 学習成果に結びつく学習支援のあり方：教室内外の学習活動の統合を目指して
 ○加藤 善子（信州大学）、○郷原 正好（神戸大学）、
 笠原 千絵（関西国際大学、非会員）
- 11:40～12:00 総合討論

部会6 ラーニング・コミュニティ

会場：C202

司会：川島 啓二（国立教育政策研究所）、長澤 多代（三重大学）

- 9:30～9:50 コモンズスペースを利用した教員・図書館職員・TA 協働ライティング指導
 ○堀 一成（大阪大学）、久保山 健（大阪大学）
- 9:50～10:10 ラーニングコモンズを触媒として推進する学生主体型授業と学習支援
 ○清水 亮（三重中京大学）
- 10:10～10:30 図書館付設型ラーニングコモンズの整備による学習行動の変容に関する探索的研究
 ○竹内 比呂也（千葉大学）、庄司 三千子（千葉大学、非会員）、
 丸茂 里江（千葉大学、非会員）、池尻 亮子（千葉大学、非会員）、
 竹内 茉莉子（千葉大学、非会員）、谷 奈穂（千葉大学、非会員）、
 國本 千裕（千葉大学、非会員）、岡本 一志（千葉大学、非会員）、
 白川 優治（千葉大学）、川本 一彦（千葉大学、非会員）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 現代アメリカにおけるラーニング・コミュニティ論の特徴と陥穽
 ○間篠 剛留（慶応義塾大学大学院）

- 11:00～11:20 図書館外ラーニングコモンズにおける学習支援の実践—大正大学の事例を通じて
○小幡 誉子 (大正大学)
- 11:20～11:40 グループ学習エリア設置による学生意識の変化と今後
○村上 孝弘 (龍谷大学)
- 11:40～12:00 総合討論

部会7 マネジメントと質保証

会場：C205

司会：高橋 哲也 (大阪府立大学)、池田 輝政 (名城大学)

- 9:30～9:50 全学共通教育のマネジメントと質保証
○鹿住 大助 (島根大学)、森 朋子 (島根大学)、松田 岳士 (島根大学)
- 9:50～10:10 琉球大学における学士課程教育の全学的質保証体制～その構造と課題～
○山田 美都雄 (琉球大学)
- 10:10～10:30 大学院教育の質保証に関する一考察—大学院教育における4つのポリシー策定を通して—
○林 透 (北陸先端科学技術大学院大学)
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 国立大学法人化前後の各大学における個性・特色の明確化について
—中期目標の前文(大学の基本的な目標)から考察する—
○菊地 勇次 (文部科学省)
- 11:00～11:20 「単位の実質化」をめぐる大学の取組と大学機関別認証評価
○野田 文香 (大学評価・学位授与機構)、渋井 進 (鹿児島大学、非会員)
- 11:20～11:40 国立大学における教員評価制度の検証
—勤務校におけるアンケート調査分析を中心にして—
○岩崎 保道 (高知大学)
- 11:40～12:00 総合討論

部会8 キャリア教育

会場：C206

司会：圓月 勝博 (同志社大学)、望月 由起 (お茶の水女子大学)

- 9:30～9:50 学生が一人前の社員に成長するまでに身に付ける必要がある姿勢・資質について
—企業人意識調査報告—
○三保 直樹 (ベネッセ教育研究開発センター)
- 9:50～10:10 就職後6ヶ月目の卒業生の語りから得た教育の成果と課題
○竹元 恵子 (園田学園女子大学)、大納 庸子 (園田学園女子大学、非会員)、
近田 敬子 (園田学院女子大学、非会員)、新垣 洋美 (京都府立医科大学、非会員)
- 10:10～10:30 学部横断ゼミによるキャリア教育
○佐藤 龍子 (静岡大学)
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 キャリア教育としての自校教育
○家島 明彦 (島根大学)
- 11:00～11:20 低単位・低意欲層に向けた「キャリア・Re-デザイン」のカリキュラム設計
～自己/他者との対話を通じたラベリング解体のプロセス
○児玉 英明 (京都産業大学)、鬼塚 哲郎 (京都産業大学、非会員)、
中西 勝彦 (京都産業大学、非会員)
- 11:20～11:40 総合討論

部会 9 異文化理解・海外の取組み

会場：C301

司会：川嶋 太津夫（神戸大学）、森 利枝（大学評価・学位授与機構）

9:30～9:50 私立大学の経営上の戦略としての留学生受入れ—留学生増加誘因としての検討—

○茂住 和世（東京情報大学）

9:50～10:10 異文化接触志向性の強い学生の特徴

○山田 悦子（東北大学）

10:10～10:30 短期留学におけるリフレクティブジャーナル導入の効果：異文化間能力向上についての探究

○山下 美樹（麗澤大学）

10:30～10:40 休憩

10:40～11:00 新しい能力（コンピテンス）の試験に関する動向—第二期ボローニャ・プロセス下のドイツを中心として

○津田 純子（新潟大学）

11:00～11:20 アメリカ大学カレッジ協会によるカリキュラム改革プロジェクト

○深野 政之（大阪府立大学）

11:20～11:40 社会人大学院の現況と課題—日星比較の観点を交えて—

○戸田 千速（前東京大学大学院）

11:40～12:00 総合討論

12:00～13:00 昼食

13:00～15:00 自由研究発表Ⅱ

（○は登壇者）

部会 10 初年次教育（2）

会場：C101

司会：安岡 高志（立命館大学）、本郷 優紀子（桜美林大学）

13:00～13:20 学生の主体的な学びを支援するひとつの試み—甲子園大学ノート大賞—

○西川 真理子（甲子園大学）

13:20～13:40 チュートリアル教育の一環としてのディベート形式の試み

○仙石 昌也（愛知医科大学）、山森 孝彦（愛知医科大学、非会員）、
久留 友紀子（愛知医科大学、非会員）、宮本 淳（愛知医科大学、非会員）

13:40～14:00 学生の能力に着目し、カリキュラムマップを活用した技術者倫理教育の実質化について

○西村 秀雄（金沢工業大学）

14:00～14:20 理学療法教育におけるリメディアル教育の実践と初年次教育の展開

○杉森 公一（金城大学）、山本 拓哉（金城大学、非会員）、木林 勉（金城大学、非会員）

14:20～14:40 大学を越えた学生による高大連携ワークショップ授業の意味

○筒井 洋一（京都精華大学）

14:40～15:00 総合討論

部会 11 教職員能力開発（2）

会場：C102

司会：佐々木 一也（立教大学）、加藤 かおり（新潟大学）

- 13:00～13:20 教職協働型研修プログラム（Q-Lab）の開発とその効果に関する一考察—Q-Links（九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク）のインパクト測定の試行—
○小貫 有紀子（九州大学）
- 13:20～13:40 大学職員のキャリア形成についての研究～キャリア形成を促進する支援制度について～
○高橋 真義（桜美林大学）、米田 敬子（文教大学）
- 13:40～14:00 教務担当職員のSDへの課題—キャリア・パスに関する調査から—
○上西 浩司（奈良教育大学）
- 14:00～14:20 シナリオ講座による大学生への生活指導～職員と教員の協働企画～
○影山 陽子（日本女子体育大学）、榊井 伊津子（日本女子体育大学、非会員）、
紅谷 薫（日本女子体育大学、非会員）
- 14:20～14:40 日本におけるIR人材の育成のあり方について
○高田 英一（九州大学）、○森 雅生（九州大学）、桑野 典子（九州大学、非会員）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 12 教育方法・授業改善（2）

会場：C105

司会：橋本 健夫（長崎大学）、森 朋子（島根大学）

- 13:00～13:20 協同学習と冗長性
○須長 一幸（福岡大学）
- 13:20～13:40 PBL型授業の改善～問いを学ぶための工夫～
○三浦 真琴（関西大学）、○岩崎 千晶（関西大学）
- 13:40～14:00 「新・橋本メソッド」と学生発案授業の融合による『新聞投稿に挑戦』
○橋本 勝（富山大学）
- 14:00～14:20 コースポートフォリオ作成における支援の一提案
○長谷川 紀幸（横浜国立大学）
- 14:20～14:40 学士力と社会性を養うためのコミュニケーション能力を育てる
○穂田 照子（桜美林大学）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 13 学士課程教育（2）

会場：C106

司会：塚原 修一（国立教育政策研究所）、於保 幸正（広島大学）

- 13:00～13:20 3・11を経験しての原子力リテラシー教育の課題
○黒田 光太郎（名城大学）
- 13:20～13:40 科学リテラシーを題材とした学生主体型授業から探る汎用的技能獲得における学習プロセスの役割
○小島 健太郎（九州大学）、山田 秀人（九州大学）
- 13:40～14:00 大学入学者の数学力・意識の状態とその規定要因に関する試論
○水町 龍一（湘南工科大学）、御園 真史（島根大学、非会員）、
椋本 洋（立命館大学、非会員）、川添 充（大阪府立大学、非会員）
- 14:00～14:20 文科系学生を対象とした情報セキュリティ関連知識の記憶定着率と転移に関する一考察
○廣渡 栄寿（北九州市立大学）、浅羽 修丈（北九州市立大学）
- 14:20～14:40 レポート作成プロセスにおけるピア・レスポンスが学習者の文章産出困難感に与える影響
○富永 敦子（早稲田大学）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 14 学習成果の測定

会場：C201

司会：井下 理（慶應義塾大学）、舛本 直文（首都大学東京）

13:00～13:20 IR 部門と学部の連携による学習成果測定の結果の活用

— 学生個人へのフィードバックの試み —

○石本 雄真（立命館大学）、川那部 隆司（立命館大学）、鳥居 朋子（立命館大学）、
小野 勝大（立命館大学、非会員）、辰野 有（立命館大学、非会員）

13:20～13:40 大学への適応を規定する要因

— 「第 2 回 大学生の学習・生活に関する実態調査」の分析を通して—

○樋口 健（ベネッセ教育研究開発センター）、岡部 悟志（ベネッセコーポレーション）、
吉本 真代（ベネッセ教育研究開発センター、非会員）

13:40～14:00 学習成果アンケートの活用可能性

○後藤 康志（新潟大学）、生田 孝至（新潟大学、非会員）、
濱口 哲（新潟大学）、佐藤 孝（新潟大学、非会員）

14:00～14:20 食意識・食行動・食物摂取バランススコアとの関係からみた栄養教育授業の効果

— 女子短期大学生を対象とした質問紙調査から—

○磯田 容子（奈良女子大学大学院）

14:20～14:40 新しいパラダイムの授業による学修状況と授業効果

～受講生のアンケートから読み解く～

○木野 茂（立命館大学）

14:40～15:00 総合討論

部会 15 教育内容・方法の改善における多様なアプローチ

会場：C202

司会：夏目 達也（名古屋大学）、飯吉 弘子（大阪市立大学）

13:00～13:20 学生の深い学習を促すためのピア・インストラクションの実践研究

— 大規模講義を対象として—

○蔣 妍（京都大学大学院）、溝上 慎一（京都大学）

13:20～13:40 国連アカデミックインパクト（UNAI）ASPIRE による教育方法の開発

○山崎 慎一（桜美林大学）

13:40～14:00 大学と地域のパートナーシップによる大学教育の生成

○小林 祐也（関西大学大学院）

14:00～14:20 東日本大震災・福島原発問題にとりくむく学生主体のグループ学習の実践研究

○小島 勇（東京電機大学）、立川 琢也（東京電機大学理工学部 2 年、非会員）、
古谷 彰悟（東京電機大学理工学部 2 年、非会員）

14:20～14:40 東日本大震災復興支援活動への参加が、学生にもたらした影響

～アメリカ Campus Compact によるアセスメントツールを活用して

○市川 享子（明治学院大学）

14:40～15:00 総合討論

部会 16 学生支援

会場：C205

司会：青野 透（金沢大学）、井下 千以子（桜美林大学）

13:00～13:20 学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察

○秦 敬治（愛媛大学）、○山崎 その（京都外国語大学）、鈴木 理絵（九州国際大学、非会員）、
泉谷 道子（松山大学）、津曲 陽子（愛媛大学、非会員）、林 真輝（愛媛大学、非会員）、
山内 一祥（佐賀大学）、岸岡 洋介（愛媛大学）、仲道 雅輝（愛媛大学）

- 13:20～13:40 学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察
 ○泉谷 道子（松山大学）、○山内 一祥（佐賀大学）、
 林 真輝（愛媛大学、非会員）、鈴木 理絵（九州国際大学、非会員）、仲道 雅輝（愛媛大学）、
 津曲 陽子（愛媛大学）、岸岡 洋介（愛媛大学）、秦 敬治（愛媛大学）
- 13:40～14:00 ユニバーサル段階の大学教育におけるリーダーシップ養成
 ー米国におけるその発展と特徴
 ○安野 舞子（横浜国立大学）、泉谷 道子（松山大学）
- 14:00～14:20 学生支援におけるマインドマップ活用の可能性
 ○佐瀬 竜一（常葉大学）
- 14:20～14:40 総合討論

部会 17 学生論

会場：C206

司会：小田 隆治（山形大学）、大川 一毅（岩手大学）

- 13:00～13:20 初年次教育を通じた学生の変化
 ○澤田 忠幸（愛媛県立医療技術大学）
- 13:20～13:40 現代の大学生が教員に望んでいることは何かー学生の受講態度に関する研究
 ○高島 翠（いわき明星大学）、藤井 輝男（敬愛大学）
- 13:40～14:00 大学生の学習へのアプローチの変容に授業経験が与える影響ー縦断的調査による検討ー
 ○斉藤 有吾（京都大学大学院）
- 14:00～14:20 大学生の学習に対する認知・行動・成果の関連
 ○山田 剛史（愛媛大学）、杉谷 祐美子（青山学院大学）
- 14:20～14:40 総合討論

15:00～15:15 閉会行事・次期開催校挨拶

会場：マルチメディア教育研究棟 M206

15:30～17:00 研究担当理事特設ワークショップ

“大学教育の実践研究をいかに進めるか”（山田礼子・羽田貴史）

会場：C101

趣旨 大学教育学会は、研究者・大学院生・実践家・大学管理運営関係者など多様な会員で構成され、大学教育改革に、それぞれの立場から取り組んでいます。複雑化する大学教育の実相を分析・統合するための研究の深化はもちろんのこと、研究成果をいかに実践に活かすのか、実践に生きる研究方法とは何か問われているといえます。個々の研究活動だけでなく、研究のあり方、方法論の構築が求められています。そのためにまず重要なのは、研究方法の共有であり、課題の共有化です。大学教育学会常任理事会には、昨年より研究担当理事が設けられ、課題研究の促進などに取り組んでいます。学会全体の研究力と実践力を向上させるために、特設ワークショップを開催し、学会員と議論の場を設けることで、研究基礎力の向上を図りたいと考えております。最終日の遅い時間帯の設営ですが、ぜひご参加ください。

報告 山田礼子（同志社大学）“大学教育を科学するー教学IRの活用への入門”

近年大学教育の質保証が重要な課題となるなかで、教育の質保証の支援ツールとしてIRへの関心が高まっています。IRとは、個別大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用することを指します。

そのなかでも、学生調査を軸とした客観的なデータに基づいて教育の現状を評価することに焦点

を当てているのが教学 I R です。本ワークショップでは、学生の学びの実態と教育成果を客観的に把握する方法の一つとして、学生の対する質問紙調査を設計していくうえでの課題を紹介しつつ、データの読み方、データを解釈する際の注意点、さらには、そうした結果を実際の改善に活かしていくためにクリアすべき実践的な課題について参加者とともに考えていきます。また、実際に教学 I R を進めている事例を紹介しながら、参加者とともに、ベンチマーキングの利点と課題について、論じることを目指します。

報告 羽田貴史（東北大学）“大学教育を運営する－実践に役立つ研究とは何か－”

大学改革を旗印に、役立つツールとしてさまざまな教育のアイテムが外国から紹介・導入されてきました。大学教育の研究といえば、欧米諸外国の高等教育を先進モデルとみなして、数々の紹介・報告の集積とも言えそうであり、高等教育研究者に対しては、大学教育改革に役に立つ研究が求められ、研究する側も、“役に立つこと”の処方箋を提供しようとしています。

一方、実態分析・調査ともいべき手法があります。教職員、学生、大学管理者を対象にした質問紙調査、関係者のインタビュー、官庁統計を基礎データにした分析、法令・規程の分析など定量的・定性的な手法が採られています。こちらは、“知ること”が目標であり、直接改革に役立つものを目指しているとはいえませんが、しばしば、その結果から改革論が提示されます。いわば、高等教育における“実践研究”と“基礎研究”ともいべきものが、われわれの周りに散乱していますが、その結果、大学教育が目覚ましい改善を遂げたかという、そうでもあるようであり、そうならないようでもあります。実践と研究はどう結びつくのか、大学教育を運営する立場から、高等教育研究の進め方とあり方を論じます。

ディスカッション

大会参加要領

1. 大会会場へのアクセス

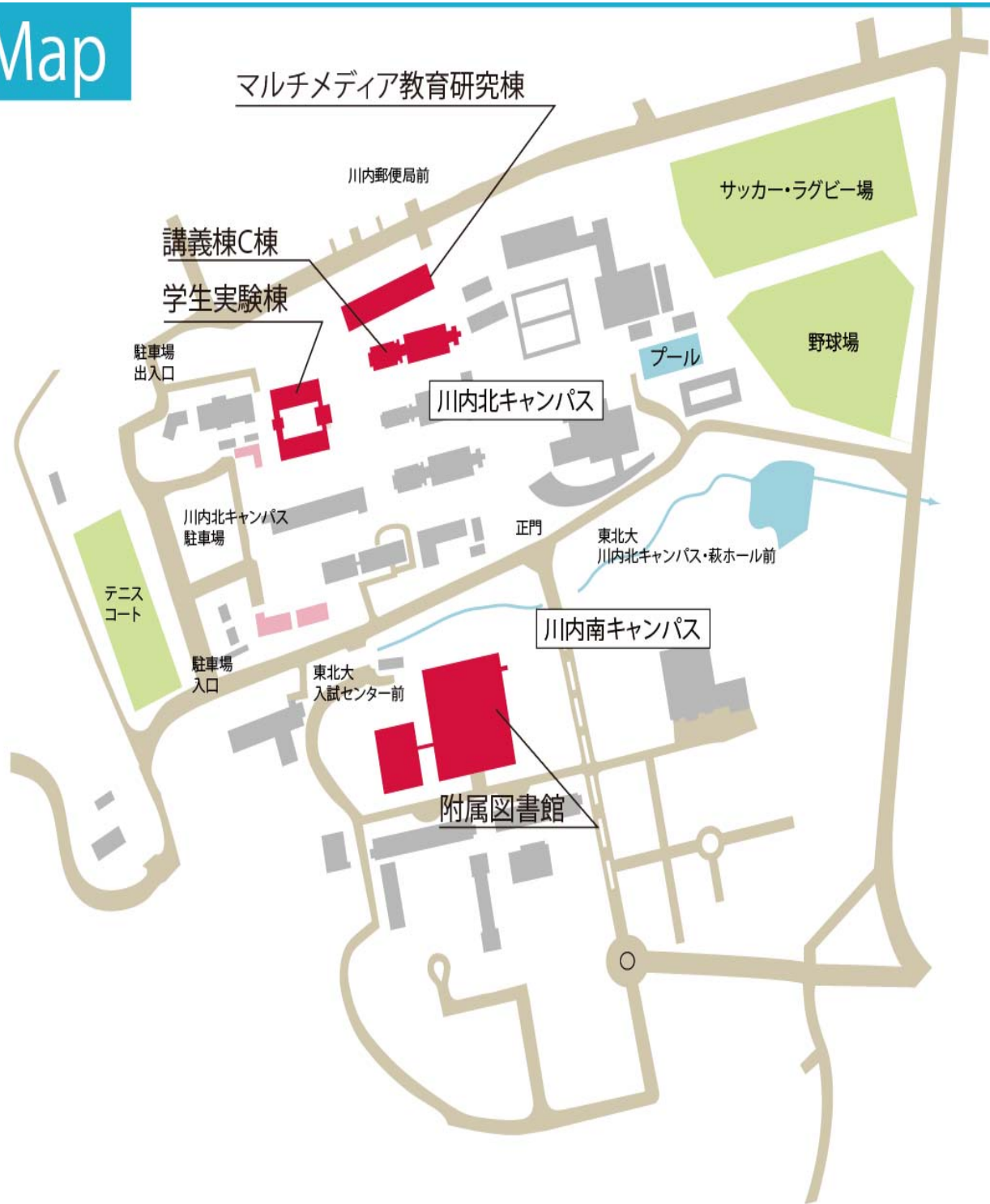
東北大学川内北キャンパスへは、仙台駅からバスのご利用が便利です。タクシーでも1200円程度（約10分）程度です。



| 仙台駅前のりば | 行き先 | 下車停留所(所要時間・運賃) |
|---------|---------------------------------|--|
| 9 番のりば | 宮教大・青葉台行 青葉通経由動物公園循環 | 東北大川内キャンパス・萩ホール前 [2-A]下車 (約 15 分、運賃 180 円) |
| 16 番のりば | 広瀬通経由交通公園・川内(営)行 広瀬通経由交通公園循環 | 川内郵便局前 [2-B]下車 (約 15 分、180 円) |

※所要時間は交通状況により異なります。

Map



2. 参加申し込みについて

下記の URL にアクセスし、「大学教育学会 第 35 回大学教育学会大会 参加申込フォーム」よりお申し込みください。

https://lolipop-dp54069295.ssl-lolipop.jp/g_member/event_sanka.php

【参加費用一覧】

| 費用項目 | | 申込日 | |
|-----------|-------|-------------|--------|
| | | 5月10日(金)まで | 大会当日 |
| 参加費 | 会員・一般 | 4,000円 | 5,000円 |
| | 学生 | 1,000円 | |
| 懇親会費 | 会員・一般 | 4,000円 | 5,000円 |
| | 学生 | 2,000円 | |
| 『要旨集』のみ希望 | | 1,000円(送料込) | |

●参加にかかる合計金額（懇親会参加の場合は、懇親会費を含む）を5月10日(金)までに郵便局等からお振り込み下さい（振込手数料はご負担下さい）。ご送金人氏名と参加申込人氏名は同一でお願いします。なお、要旨集費（1,000円）は、大会に参加されず『要旨集』のみご希望の方が対象です。

●振替口座は5月10日の入金を待って閉鎖します。5月11日以降に申し込みをされる方は、大会当日（6月1～2日）に受付にてお支払いください。

●支払方法は次の通りです（振替口座は5月10日の入金を待って閉鎖します）。

1. 郵便局から

ニュースレターに同封または郵便局に備え付けの払込取扱票、ATMにより以下へお振込下さい。

口座記号番号：02220-7-119196

加入者名：大学教育学会大会実行委員会（ダイガクキョウイクガツカイトイカイジッコウイインカイ）

2. 郵便局以外の金融機関から

銀行名(金融機関コード)：ゆうちょ銀行(9900)

店名(店番)：二二九(229)

預金種目：当座

口座番号：0119196

加入者名：大学教育学会大会実行委員会（ダイガクキョウイクガツカイトイカイジッコウイインカイ）

＝事務局から＝

● 【重要】会費納入のお願い

今年度(2013年度)の会費請求書、郵便払込取扱票を同封させていただきました。**5月10日(金)までに**必ずご入金下さい。領収書につきましては、郵便払込票の受領書をもって替えさせていただきます。

年会費等郵便振替口座 00120-4-178891 「大学教育学会」

ご入金の際は郵便払込票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、以下の**大学教育学会 学会業務取扱センター**までその旨ご連絡下さい。

会費納入は、大会時の発表申し込みの前提条件となっております(詳細は、ウェブサイト「大会実施要綱」をご確認ください)。また今年度より、過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送るなどの措置をとらせていただく予定です。皆様の速やかな納入をお願い申し上げます。

なお、入金状況については、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。

<「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先>

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10アーバン大塚3F (株)ガリレオ内

TEL:03-5907-3750 FAX:03-5907-6364

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

● 団体会員、会誌配布団体の会員番号(ID)について【ご注意】

すでにご案内しております通り、団体会員、会誌配布団体の会員番号を2012年4月より変更しております。これらの会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

<会員番号>

以前の**会員番号**、千の位の数字と百の位の数字の間に「0(ゼロ)」を入れた**5ケタの番号**です。

例：団体会員：(旧)3111→(現)30111 会誌配布団体：(旧)5011→(現)50011

● 大学教育学会第35回(2013年度)大会参加費・懇親会費等の払込について

本ニュースレター(NL93号)に参加費・懇親会費等の払込について詳細をご案内しております。また、払込取扱票についても同封しております。

● 課題研究候補選定委員会からの新課題研究委員会メンバー募集

別紙(黄色・計2枚)を、本ニュースレター(93号)と同封しております。

● アーカイブズ委員会からのご寄贈のお願い

別紙(青色・両面印刷)を、本ニュースレター(93号)と同封しております。

● 2013年度課題研究集会について

2013年度課題研究集会(開催校:同志社大学)は、11月30日(土)～12月1日(日) 同志社大学今出川キャンパスにて開催予定です。詳細は次回のニュースレター(94号、9月中旬発行予定)にてお知らせいたします。

● T. ローズ博士(Dr. Terrel Rhodes)講演会

学会の国際化推進のため、2012年度から「国際化プロジェクト」が開始されました。その第1回事業として、講演会を 6月29日(土) 15:00～17:00 兵庫県看護協会ハーモニーホールにて開催予定です。詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

● 住所変更の届出についてのお願い

定期刊行物は、宅配業者メール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。そのような場合、会員の方のお手元へのお届けが非常に遅くなりますので、送付先の変更が生じた場合、速やかに会員登録情報の変更申請をウェブサイト上の会員ページよりお願い申し上げます。



【学会事務局】

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1
桜美林大学 淵野辺キャンパス 3階
Tel/ Fax: 042-704-7014
E-mail: ungakkai@gmail.com
URL: <http://www.daigakukyoiu-gakkai.org/>

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター
〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10アーバン大塚3F (株)ガリレオ内
TEL: 03-5907-3750 / FAX: 03-5907-6364
E-mail: g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp